

みなと MIO MACH ケンチクさんぽ vol.22

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

多様な文化がひしめき合って共栄するまち

元町4丁目にあるこうべまちづくり会館を日ごろよく利用させてもらっていることから、元町商店街なども見慣れた景色になっています。ここ数年、コロナ禍の影響もあって対面での会議はほとんどリモートで開催。この記事を書かせていただくにあたりハーバーロードから鯉川筋まで元町を縦横に歩いてみることにしました。

この町は、東西方向には東の鯉川筋から西のハーバーロードまでの間に9つの通りと、南北方向には南の国道2号線から北の県道の間には4~5つの通りからなっています。それぞれの通りは似通っていてもブロック毎には独自の景観があり文化を持ち合わせていると思います。

東西方向の通りについて言うと、元町商店

街は旧の西国街道であり、アーケードに覆われ商業の軸です。一方、栄町通りは道路の幅が広く域内交通の軸であり、沿道はビジネス街で比較的高さの揃ったビルが列をなし、景観をつくっています。南の浜手幹線は通過交通の軸幹線です。南京町はということで、観光客は多くコロナ禍前の賑わいを取り戻したようです。

この町のキャッチは「高級・ハイカラ・エレガンス」です。私は趣味でハガキ大の水彩画を描いていますが、キャッチと同様にこの町をとらえ、以前から絵になる風景として栄町通りや海岸通り(浜手幹線)にある歴史的建造物を絵の対象として描いています。この度改めて町を歩いたことで普段見過ごしていた風景の中に面

白く感じたことがあります。町全体がモンドリアンの描くグリッドパターンを用いた「コンポジション」の如く区画されているながら、趣の異なる風景が隣接し溶け合っている。さながらキュビズムでありモザイクとも言える町の風景が存在します。そこには高級やエレガンスだけでは括れないわくわく感あり、元町の多様な文化がひしめき合って共栄する姿が見え隠れしていて楽しく思えます。

今どきの行列のできる店舗の出店や、時代と折り合わなくなった店舗の撤退は、どの商店街でも日常的といえますが、一方でこの町に根をおろし頑張ってきた老舗の店舗の閉店はいささか寂しい気がしました。特に、となりの頁に連載されている海文堂や、丸善神戸支店は専門書の書店としてよく利用していましたので、ひとしおです。



商船三井ビルディング

ポートアイランドから見た元町
(筆者の水彩画)

海岸通の風景

当時の写真を元に描いた飾磨県庁舎
(CG アトリエフォルム)

兵庫県にはもう一つの元町があり、県庁舎が存在していました。

元町と名の付く町は日本全国有名なところがあります。横浜市の元町、金沢の元町など。神戸と横浜が元町と呼ばれたのは、神戸は明治7年5月20日(1874)で、横浜が万延元年(1860年)2月で少しか横浜の方が古いことになりませう。

私は姫路で建築設計事務所を主宰しています。事務所の所在地は西新町で姫路城の西南にあり、古くは「元町」と呼ばれていました。姫路の元町も東西に長く、神戸の元町と同じく旧西国街道が町の中央を貫いています。ですから、「元町」の地名は、横浜や金沢、神戸や姫路と考え合わせれば県庁所在地に存在するとして私は漠然と感じていました。

姫路の元町には僅か7日間でしたが飾磨県の県庁が存在していました。現在の兵庫県を形付けるエリアは飾磨県と豊岡県(但馬、丹波)、名東県(阿波および淡路全域)と兵庫県の4カ国です。明治4年から明治政府に訴えていた飾磨県の新庁舎建設が明治8年4月4日に紆余曲折の末、受け入れられました。その時の建設費を大久保利通は官費三分の一、地元献金三分の二を充てるのが妥当と裁定しています。

飾磨県庁舎は、玄関を前面に張り出し、その上に菊のご紋章を冠した三角形のペディメントを戴く。主屋の中央には八角形の望楼を載せ、

堂々たる威風を醸し出していたようです。明治9年8月14日に竣工。20日の落成式の翌日、大久保利通から「大兵庫県構想」が打ち出され、飾磨県をはじめ豊岡、名東両県も一気に兵庫県併合が強いられることになりました。

兵庫県は、明治元年旧政府領を新政府が接収して兵庫津周辺の幕府領を管地し設置されています。

巨費を投じ完成した新飾磨県庁舎は何の業務もせず不要の洋館となり巨額の無駄を生みました。当時、播磨(元の飾磨県)が収めた国税(明治13年)は1,426,000円で全国のベスト3に入ります。地方税においても播磨は226,000円。摂津86,000円、但馬49,000円、丹波・淡路38,000円に比べ桁違いに多かったことから、地元は明治十四年飾磨県再置請願を提出したが聞き入れられることはありませんでした。

この飾磨県庁舎は明治期の姫路を代表する建物でありながら、廃庁となったために、県立姫路病院、日本赤十字病院として転用されていますが、大正3年機械室から失火し焼失しています。翌年には木造2階建ての病棟が再建され、その後も増築を繰り返しながら、昭和8年には鉄筋コンクリート造3階建てにすべて建て替えられました。

設計したのは兵庫県初代営繕課長となった

置塩章でした。歴史の転換期に大きな制度改革で翻弄され、人々の生活は大きく様変わりしました。この時代の建物や街並みは和と洋が刺激を受けながら、混在した文化として今に伝わっています。姫路における歴史を、建物や街並みの写真で記録し続けた高橋秀吉氏(1899~1979)のコレクションが兵庫県立歴史博物館にあります。その中でわずか1枚ですが、正面から撮った飾磨県庁舎が写っています。

この写真を掲載しても良いのですが、明治の現存しない飾磨県庁舎と、明治大正の建物で現存する元町の歴史的建造物を、絵で括りたいとの思いで、弊社で描いた飾磨県庁舎のCGを掲載させていただきました。

震災で、或いは経済的な理由で壊され姿を変えていった幾多の建物もありますが、日本の近代化を促進し原動力ともなった数々の歴史的建造物がここ元町にはたくさん存在します。絵を描く私から言わせてもらえば、いろいろな意味で、混じりあう文化の面白さを持ち合わせたみなと元町と姫路の元町は、とても魅力的で絵になる風景だと思っています。



吉田文男 (よしだふみお)

(株)一級建築士事務所アトリエフォルム
ファッション・ハウジングデザイン学科
代表取締役会長/姫路市西新町101-1
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会
監査/近畿支部副支部長